

第12期 第9回町田市学校給食問題協議会 会議録要旨

日 時	2020年11月18日(水) 14時30分～16時00分
場 所	市庁舎3階 第3-1会議室
出席者	<p><委員>敬称略</p> <p>柳田拓史、中谷聡子、田中芳美、杉島万紀子、上屋都、大野智得子、高橋杏美、上野香織、山下文子、長尾望生、高田公彦、小口悦子</p> <p><事務局></p> <p>学校教育部長、保健給食課長、保健給食課職員3名</p>
傍聴人数	6名

■会議内容

1. 委嘱式・委員紹介
2. 諮問
3. 町田市教育委員会 教育長挨拶
4. 協議
5. 次回の日程
6. その他

■配布資料

- 1 諮問書の写し
- 2 第12期 町田市学校給食問題協議会委員の名簿
- 3 資料① 町田市学校給食問題協議会への諮問及び答申
- 4 資料② 中学校給食パンフレット「町田市中学校給食のご案内」
カラーチラシ「給食リクエスト券」「献立表」「給食の容器が変わります」
- 5 資料③ 給食の方式の種類について
- 6 資料④ 中学校給食の現状と課題と基本的な考え方
 - 資料④-1 中学校給食無料試食会アンケートの結果
 - 資料④-2 2017年度中学校給食に関するアンケートの結果(抜粋)
 - 資料④-3 町田の新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集および
(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040パブリックコメントの結果
 - 資料④-4 他自治体の給食提供方式のまとめ
 - 資料④-5 学校給食法(抜粋)

■委嘱式・委員紹介

所属団体からの選出等により、6名の委員が退任し、新たに6名の委員が委嘱された。計15名の委員で協議を進めていただく。

■諮問

坂本教育長から小口会長に「新たな中学校給食の提供方式について」諮問がされた。

■町田市教育委員会 教育長挨拶

■協議

「新たな中学校給食の提供方式について」

【会長】

当協議会に諮問された議題について、協議に入る。

事務局より配布資料の確認と説明をお願いします。

【事務局】

資料①「町田市学校給食問題協議会への諮問内容」について説明する。

第1期～第12期の諮問内容を記載した資料である。

2020年2月に答申をいただいた、「中学校給食について」では、現在提供しているランチボックス形式の給食について、多くの生徒、保護者にとってより良いものとしていくため、試食会や情報発信などに取り組むなど「給食を知る機会の提供」をすることや、支払にかかる利便性向上、給食利用における生徒の負担軽減など「利用者負担の軽減」をすること、温かい給食の提供や量の調節など「提供内容の充実」についてなど、改善に関するご提案をいただいた。

資料② 中学校給食パンフレット「町田市中学校給食のご案内」、カラーチラシ「給食リクエスト券」「献立表」「給食の容器が変わります」について説明する。

前回の協議会でいただいた意見をもとに取り組んだ事例をいくつかご紹介する。

中学校給食パンフレット「町田市中学校給食のご案内」は、中学校給食の提供内容について紹介しているパンフレットである。これは、前回の協議会で、「知る機会の提供」についてご提案をいただき、早期に着手できる取り組みとして作成したものである。新中学一年生への配付や、入学説明会、給食のご紹介などで使用している。

「給食リクエスト券」は、昨年度実施した中学校給食無料試食会の生徒アンケート結果で、「給食のリクエストをとり、生徒の希望を献立に取り入れること」についての要望が多かったため、「給食リクエスト券」を全中学校全生徒へ配付し、献立に反映を行っている。

「献立表」は、昨年度まではモノクロであったが、2020年4月分から給食の写真が入ったカラーの献立表に変更している。なお、生徒からいただいたリクエストの結果は、2020年10

月からの献立に反映した。

「給食の容器が変わります」は、前回の協議会で給食の容器についてのご意見をいただき、2020年10月から、町田市の10校の中学校において給食容器の変更を行った。給食容器の色やデザインは、生徒により興味を持ってもらうため、生徒にアンケートをとり決定した。新しい容器は生徒に好評で「明るくなった」「かわいくなった」「おいしそうに見える」などといった感想をいただいている。

資料③「給食の方式の種類について」説明する。

今後、皆様には、「新たな中学校給食の提供方式」について、どのような組み合わせで、どのような提供方式にすることが、中学校給食として望ましいのか、ご意見をいただく。給食の提供方式は、いくつか種類があるので、資料③を使って説明する。

まず、喫食の形態について説明する。

「選択制給食」とは、給食利用をするか家庭から弁当を持参するかを選択することができる方式で、現在、町田市の中学校給食で実施している方式である。「全員給食」とは、原則、全員に同じ給食を提供する方式で、現在、町田市の小学校給食で提供している方式である。

次に、提供の形式について説明する。

「ランチボックス形式」とは、主食とおかずを弁当容器に入れて提供する形式で、現在の町田市の中学校給食で実施している形式である。主食は温かい状態で提供するが、おかずは食中毒予防のため、冷やした状態で提供している。「食缶形式」は、食缶から各クラスで配膳する形式で、現在の町田市の小学校給食で提供している形式である。温かいものを温かく、冷たいものを冷たく提供することができるが、各食器に配膳する作業が必要となる。

次に、施設の所有状況について説明する。

「市所有施設」とは、町田市が市内で所有、管理を行う施設で、現在の町田市の小学校給食が該当する。対して、「民間調理場」は民間業者が所有、管理を行う施設で、現在の町田市の中学校給食が該当する。

給食提供における施設の方式について説明する。

「自校方式」は、各学校の学校敷地内に給食室を建設し、給食を調理、提供する方式で、「親子方式」は、給食室を持っている学校を「親校」とし、給食室をもたない学校「子校」の給食を調理し、給食室を持たない子校に配送、提供する方式である。「給食センター方式」は、複数の学校の給食調理を一括して行い、給食喫食時間に合わせて各校に給食を配送、提供する方式である。

現在、町田市立中学校19校では、「選択制給食・ランチボックス形式・民間調理場」で実施している。小学校42校及び武蔵岡中学校では、「全員給食・食缶形式・市所有施設」で実施している。なお、武蔵岡中学校は、配送のない親子方式だが、今回は自校式として分類している。

委員の皆様には、新しい提供方式について、どのような提供方式が望ましいものである

か、今後議論をいただきたい。

資料④「中学校給食の現状と課題と基本的な考え方」について説明する。

(1)これまでの経緯

①現行方式の導入

現在の中学校給食は、2005年度から始まり、5年をかけて中学校全校に導入した。それまでは、全生徒が家庭弁当であった中学校について、共働き世帯が増えるなど、家庭環境が多様化するなかで、家庭の方針や生徒の意向で「家庭弁当を継続したい」という要望と、保護者から「給食を実施してほしい」という要望が寄せられており、双方の意見を尊重し、町田市が作成した「町田市中学校給食実施計画」について第9期学校給食問題協議会に諮問した。協議会からは家庭弁当又は給食を選択することができる「弁当併用外注給食方式」で実施するよう答申をいただき、この答申を受けて町田市として学校給食法に基づいた現行方式の給食を導入するに至った。

②現在の提供状況

現在の提供状況だが、武蔵岡中学校をのぞいた町田市立中学校19校において、給食を希望する生徒から事前にご注文いただき、市外にある民間調理業者2社の自社工場で調理した、「ランチボックス形式」の給食を各中学校に配送している。

給食を利用している生徒の割合を示す喫食率は、給食が全校に導入された2009年度の32.5%から年々減少を続け、2019年度には、9.6%となった。2019年度実施した中学校給食の無料試食会をはじめ、給食利用を促進する様々な取組みを実施したことにより、直近である2020年10月の喫食率は10.2%となり、わずかだが上昇傾向となっている。

③現行方式「選択制・ランチボックス形式」の評価

現在提供している「選択制・ランチボックス形式」の給食の状況について、説明する。

メリットとしては、「学校給食法に則った栄養バランスの整った食事が提供できること」「弁当を持参したい家庭、給食を利用したい家庭、双方の意見を尊重できること」「小学校のような食缶からの配膳作業がないため、学校生活における影響が少ないこと」「給食の導入にあたり、給食調理施設の建設地確保や建設費用が不要であり、早期導入が可能であること」「給食調理施設の改修など、維持管理にかかる費用が原則不要であり、ランニングコストが低価格であること」があげられる。デメリットとしては、「調理から給食提供までに時間がかかるため、食中毒予防の観点から、おかずを冷やして提供しなければならないこと」「ランチボックス形式のため、配膳時に量を調整できないこと」「民間調理場のため食物アレルギー対応ができないこと」「給食利用者は配膳室に給食を取りに行く時間が必要であり、全員の準備が整うまでの間、弁当持参者を待たせることになってしまうこと」「市外業者の調理施設であるため、地場産物の利用が難しいこと」があげられる。

これまで、中学校給食の利用を促進するため、明るいイメージの容器への変更やごはんを温かい状態で提供できるよう保温方法の工夫、給食の注文方法を1ヶ月単位の紙での申込から、1日単位で注文することができる給食予約システムの導入、中学校19校の全生徒

を対象とした無料試食会など様々な取組みを行ってきたが、2020年10月時点での喫食率は10.2%であり、わずかに上昇はしているものの、大きく増やすには至っていない。

喫食率が上がらない原因について説明する。昨年、給食を実際に食べた上で、実施した「中学校給食無料試食会」の生徒アンケートの結果では、「温かい給食が食べられること」「量が調整できること」への要望が多く、保護者アンケートの結果では、給食時間が長くなることへの要望が多く寄せられている。2020年2月まで行われた第12期学校給食問題協議会からの答申でもこれらについて検討するよう意見をいただいた。

しかし、現行方式においては、温かい給食の提供や量の調整といった要望に応えられていないことや、生徒からは個々の状況に合わせられる家庭弁当を望む声が多いことなどが、給食利用者を増やすことができない要因であると考えている。

(2) 社会情勢の変化

① 市民からの意見

2017年度に実施した「中学校給食に関するアンケート」では、全員同じ給食が良いかという問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、生徒が14.1%、保護者が53.8%であった。現在と同様の選択制が良いかという問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、生徒が57.6%、保護者が33.1%であった。全員家庭からのお弁当が良いかという問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合は、生徒が44.9%、保護者が5.6%であった。傾向として生徒は選択制を希望する割合が多く、保護者は全員給食を望む割合が多いことがわかった。

また、2019年度に実施した中学校給食無料試食会後の生徒アンケートでは、今後給食を注文したいかという問いに対し、「注文したい」「たまには注文したい」と回答した生徒は、17.7%であった。注文したくない理由としては、「家の弁当が良いから」「おいしくないから」「冷たいから」といった声が多い。もっと給食を利用しやすくするために必要なことは何かという問いに対しては、「温かいものが食べられること」「量が調整できること」「献立のリクエストをとり生徒の希望を献立に取り入れること」を求める意見が多かった。無料試食会後の保護者のアンケートでは、給食を注文したいかという問いに対し、「注文したい」「たまには注文したい」と回答した保護者は41.5%であった。生徒の皆さんがもっと給食を利用しやすくするために必要なことは何かという問いに対しては、「給食時間が長くなること」「温かいものが食べられること」「量が調整できること」を求める意見が多く出されている。傾向として、生徒・保護者ともに、温かい給食や量の調整できる給食を望む声が多いことがわかる。

その他、2020年度に町田市が実施していた「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040のパブリックコメント」や「まちだの新たな学校づくりに関するアンケート調査・意見募集」において、「中学校給食を実施してほしい」「自校式給食が良い」「全員給食が良い」といった要望が寄せられている。

②他自治体の動向

2019年度現在、東京都内で町田市と同様の「選択制・ランチボックス形式」で給食を実施している自治体は、八王子市、立川市、東村山市、国分寺市、東久留米市の5市である。このうち、八王子市、立川市については「全員給食・給食センター方式」に移行することを決め、整備を行っている。八王子市の一部の学校では、「全員給食・親子方式」で給食を提供している。また近隣自治体である、海老名市、横須賀市、平塚市、秦野市などは「全員給食・給食センター方式」の導入に向けて整備を進めており、全員給食を実施する自治体が増えてきている状況である。4ページの表は、都内26市の状況であるので参考にしてほしい。

③新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、町田市では2020年3月から5月の末まで、町田市立小中学校を臨時休業にした。学校再開にあたっては「早く学校給食を再開してほしい」という保護者や学校の要望がある一方、安全に給食を提供できる方法や、調理受託業者との調整に時間を要することとなった。

小学校給食では、配膳時の負担を軽減し、安全に給食を提供するため、簡易給食の提供や給食時間の変更を行うなど、学校の状況に合わせた対応ができた。しかし、中学校給食では、配膳の負担は少ないものの、事前の予約注文における管理や給食の配送時間等の調整など、学校の状況に合わせた対応が困難な状況であった。

中学校給食は、市外にある民間調理場から配送を行っている。現在の喫食率が1割程度である状況を踏まえ、1日あたり4割程度まで供給できる体制としている。そのため、急な供給量の増加や予定変更、災害時に給食施設を利用した対応など、非常時に求められる臨機応変な対応が難しい状況であるということを新たに認識した。

(3)現状と課題のまとめ

学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達や食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであり、町田市としては、これからも成長期の子供たちに栄養バランスのとれた給食を提供していくことが必要であると考えている。

これまで、中学校給食の利用を促進するため、さまざまなことに取り組んできたが、給食利用者が増えていないことや、現行方式における中学校給食に関する市民からの意見、他自治体の動向や新型コロナウイルス感染症の影響などを考えると、現在の「選択制・ランチボックス形式」では、喫食率を大幅に向上させ、かつ非常時に臨機応変な対応が取れるような体制をとることは難しいと考えている。

現行の「選択制・ランチボックス形式」の主な問題点としては、「温かい給食の提供ができていない」「給食の量の調整ができない」「食物アレルギーの対応ができていない」「非常時における柔軟な対応ができない」などがあげられる。これらの問題点を解決するため、今回諮問させていただいたとおり、町田市としては「新たな中学校給食の提供方式を検討する必要がある」と考えている。

次に、「中学校給食の基本的な考え方」について、説明する。
まず、学校給食関連の法令等について説明する。

①学校給食法について

学校給食の普及充実を図るために、学校給食の実施について定めた「学校給食法」について、記載をしている。この法律の主な目的としては、「学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達に資する。」ものであること、「学校給食は、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たす。」こと、「そのため、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、学校給食の普及充実と学校における食育の推進を図る」ことなどが、掲げられている。

②学校給食実施基準について

学校給食実施基準とは、学校給食を適正に実施するために文部科学省が定めている基準である。児童生徒に必要な栄養量など学校給食の内容や学校給食を適切に実施するために必要な事項について、維持されることが望ましい基準が定められている。内容は記載のとおりである。

今回は、現行方式の現状と課題、そして基本的な考え方を説明した。次回の協議会では、各給食提供方式のそれぞれのメリットとデメリット、そしてコストなどを比較できる資料をお示ししたいと考えている。次回はこれを参考に新たな中学校給食提供方式の具体的な検討をしていただきたい。

【会長】

各委員より意見をいただきたい。学校現場の様子を教えてください。

【柳田委員】

現行のランチボックス形式の給食提供に関する教育委員会の尽力に感謝している。様々な努力をした上で喫食率が上がらず、今回の提案に至ったと思っている。

現行のランチボックス形式の良さは、配膳・片付けにおけるトラブルが少ないことで、学校現場では意外に看過できないことである。給食時間の遅延を生むこと、休み時間の短縮につながることはない。そこは、ランチボックス形式の良い点だと思っている。コロナに関しては、全員が前を向いて食べている。そこを踏まえると、弁当やランチボックス形式の給食であったことが、その対応を容易に可能にしたと思う。

一方、自校・親子・センターそれぞれの形式の給食を経験してきたが、自校式はできたてで子供たちの栄養上・健康上いいのかなという思いがある。「何より必要なのは子供に対する食の教育が大事なことである」ということを、給食をいただきながら思っているところである。地域の方の野菜を頂戴して給食に取り入れることや、給食を通して地域と関わることができた。自分で育てたものを自分で食べることで、食に対する感謝の念が生まれたりする。給食

に対する大変なことが多くある一方で、給食でなくてはならない良さというのがあると思う。
実施にはいろんな経費、年月がかかると思う。資料をみて判断したい。

【会長】

選択制についてはどうか。

【柳田委員】

なかなか喫食率が向上する状況ではない。教育現場そのものが個人の想いを尊重する方向である。食生活も個人個人でということも一つの考え方かなと思う。配膳でも選択でもない第三の給食のあり方を考える時代かもしれない。

【中谷委員】

町田市中学校給食のご案内」がカラーで見やすくなり、保護者にもPRしやすい。献立表もカラーで見やすく、わかりやすい。容器も明るくなっていて良い。頼んでみようかなと思ってもらえると思う。

お弁当とランチボックス形式が選べることはありがたいという声もある。食物アレルギーがある子は、弁当であれば、自分の家庭で持参できる。選択制はありがたい部分もある。

【会長】

小学校では配膳しているかと思うが、配膳にかかる時間はどれくらいか。

【中谷委員】

配膳には時間がかかっている。低学年では身支度を含めて20分くらいかかっている。衛生に気を付けており、時間も神経も使っている。

【杉島委員】

平成20年に学校給食法が改正され、学校での食育の推進が明確に位置付けられた。その時から給食を生きた教材として扱うことになった。目で見て味わって食べてという給食の重要性が叫ばれている。目の前の給食を食べることによって、地場農産物のことなど様々なことを学ぶことができる。小学校1年生から中学校3年生の成長を小中一貫まちだっこカリキュラムをもとに見ていけるのは幸せなことではないかと感じている。

【田中委員】

中学校給食については詳しくはないが、喫食率が低いのは聞いている。6年生対象の試食会を小学校で実施したときは、おいしかったし、児童はまずいなどとは言わなかった。選べるとすると自分の好きなものを食べたいとなってしまう。ランチボックス形式はコロナの時代には配膳はないのでいいかもしれないが、全員給食ではないため、子供たちが摂る栄養の差が出てしまうことが懸念される。中学生の子がいる親からは、中学校でも小学校と同じよう

な給食を食べたいという意見があった。

【会長】

中学校給食は、残食の程度は確認しているのか。

【事務局】

月に1回程度行っている。

【会長】

小学校PTAの委員からの意見を伺いたい。

中学校でどのような給食が提供されると良いと考えるか。

【高橋委員】

自分の子供はまだ小学生なので、中学校の状況はわからない。資料を見ると、カラーで示されており、目で見てもメニューがわかり、食べたい気持ちになる。小学校では文字での案内なので、カラーのほうがイメージしやすい。

食育の面で考えると、楽しくないと学ぶことができないのではと思う。食育の面で考えるのであれば、全員同じような給食方式のほうが良いのかなと思う。

【大野委員】

中学校で選択制の給食があると今日初めて知った。近所の中学生のお母さんが、毎日弁当だと言っていたが、子供が「弁当が良い」という家が多いのではないかなと思う。親が作るもののおいしいのかなと思う。小学校では、みんなと一緒に食べられることを子供が喜んでい。中学生だと自分でお弁当を作る子も出てくるのかもしれない。給食であれば、親は助かると思う。

【会長】

中学校は現状は選択制である。弁当になってしまったら、親は負担だろうか。

【大野】

子供もが弁当が良いというなら作る。現状は子供からどちらが良い等の意見はない。

【会長】

中学校PTAの委員からの意見を伺いたい。

新たな提供方式について、どのような給食が良いかなど希望はあるか。

【上野委員】

自分の子は中学2年生だが、親の私に選択権はなく、弁当を持参している。無料試食会

で食べたが、味はまずくはないが、「もう食べなくていいよね」と言われた。給食は幅広い食材が使用されていて、家で作るとここまで幅広いものを作ることは無理なので、たまには食べてほしいと言ってみたが、何かが変わっても食べないと言われてしまった。

【会長】

お子さんがそのように言うのは、何か理由があるのか。

【上野委員】

上の子の弁当を作っているため、一緒に作ってほしいと言われている。

【山下委員】

自分の子は中学3年生女子である。昨年度無料試食会で試食した。もう卒業するまで食べないと言われた。頼んでいる人がいなく、給食を取りにいくと、時間がなくなってしまうというのが大きいようだ。また、給食を頼んでいるのは男子が多いようで、女子はいないから嫌だと言われた。

食物アレルギーの子にとっては、選択制が良いのではないか。

選択制であるがゆえ、親は給食にしたい、子は嫌だ、だから仕方なく弁当という流れになってしまっている。全員給食であれば、みんな同じだからと子供も食べてくれると思う。

【会長】

選択制であるがゆえに選択されないということだろうか。

【山下委員】

栄養面はすごく良いが、頼んでいる人がいないと子供達からすると頼みにくい。食物アレルギーがある人のことを考えると、選択制は良いが、今後も喫食率は上がらないと思う。全員ランチボックス給食だといいかかなと思う。

【長尾委員】

活動しているメンバーほとんどが50～60代で、今の現場から離れた状況であり、実際の小中学生に直結した意見を申し上げることはできないと思っているが、コロナの状況で、生活様式が変わるであろうと考えている。個人を大切にするような状況は出てくるかなと思う。物の選択の仕方も変わってしまうかもしれない。極端な状況がおこりえるかもしれない。具体的なことは今日は言えないが、考え方を変えていかなくてはならないかもしれないと思った。

【高田委員】

資料②のパンフレット等が以前の白黒印刷と比べ大きく改善され、興味がわくような内容になった。無料試食会も実施され、喫食率はもっと伸びると期待していた。まだ、周知がされていないかなと思っている。周知には時間がかかるかなとも思っている。

先程、山下委員から話があったとおり、もし給食を実施するなら全員同じものでという意見が前回までの協議会でもでていた。思春期の子の考え方として、仲間外れになるのが嫌だという心理が働くかもしれない。

今行っている選択制のメリットを考えると、一度に全員にするのは乱暴ではないかとも思う。給食を普及させるため、週に何回か給食の日を決めるなどの方法もあるのかなと思う。

新しい課題が事務局から説明されたが、非常時の話として、自分自身は薬剤師であるため、災害時の対応を薬剤師会として考えていた。薬のことを考えていたが、食事のことについて、新たに気づかされた。小学校のように設備が整っていれば、炊き出しができるなど対応しやすいのかなとも思う。

今回、みんなで知恵を出し合えばいいのかなと思う。

【上屋委員】

小学校給食の調理員を27年やっている。その当時は、アレルギーの児童は少なかったが、現在増えている。アレルギー対応を考えると、選択制を残しても良いのかなと思う、

中学校給食は、配膳室が教室から離れている。取りに行っていると、他の子が食べ終わってしまうということがあったと聞いたことがある。

保護者からは、働いている人などは、給食を利用してほしいが、子供が嫌というので、弁当を作っている状況があると聞いている。

思春期の子供は皆が頼んでいないと頼みにくいと思うが、選択制の良さを残しつつ、曜日を決めて食べるなどの全員給食にしたら良いのかなと思う。

【会長】

小学校では、アレルギーの対応はどうしているか。

【上屋委員】

除去食を提供している。重度の子は弁当持参である。

【会長】

皆さんの意見を聞いてから、どうか。

【長尾委員】

現在の中学校の時間割の状況を聞くと、配膳をする時間がなく難しいと思うが、どうか。他の方式になり、一斉に給食になるとどうか。

【柳田委員】

先程ランチボックスを取りに行くのが遠いという話があったが、本校では配膳室は1階で1年生の教室は4階である。ランチボックスを取りに行くのに時間がかかっている。配膳形式の給食になると、配膳に時間がかかる。子供も作業に得手不得手がある。どちらに時間が多く

かかるかは、わからない。

本校は、12:40に4時間目の授業が終わり、13:10からが昼休み。給食の時間は30分程度である。要領のいい3年生は食べ終わりが早いですが、1年生は最初時間がかかっている様子がある。今の昼食時間はそのような使い方をしている。

【会長】

事務局どうか。

【事務局】

保護者代表の方からの意見は、無料試食会のアンケート結果を反映していると感じた。

補足であるが、こちらが新たな課題として認識した「非常時」の対応のことは、地震などの災害ではなく、コロナに関して分散登校というものを実施したところについてである。数時間授業をして、早く食事をして帰る、または1日おきに登校するといった対応を行った。小学校は、自校で食材を発注するなどしているので柔軟な対応がしやすかった。中学校については、ランチボックスに入っているので感染リスクは減らせるが、業者との調整が必要であり、早い時間に提供することや、分散登校時の給食時間設定をすることが難しかったと思う。コロナに限らず、今後同じようなことが起きた場合、部分的な登校などの非常時の対応を求められたときの対応を考えた際、今のところそれに対応できる策は持ち合わせていない。非常時の対応ということはそういうことであることをご理解いただきたい。

【会長】

他に意見はあるか。ないようであれば、事務局他に何かあるか。

【事務局】

柳田委員からお話しがあったとおり、給食時間だけを考えるとこの方式が良いというような意見が出やすいと思うが、全体を通して、その時間を確保するために何か犠牲になり時間が削られると考えた場合、何か意見はあるか。全体の時間枠について、何か意見があれば、教えてほしい。

【会長】

何か時間のことについて、心配なことがあるか。

給食時間を長くとることについて、学校として問題はありますか。

【柳田委員】

各学校で考え方はあると思うが、食事の時間をゆっくりとることについては、異論はないと思う。食事をかきこむような状況になってはいけないと思う。

子供の立場になると、自分にとっての自由な時間を謳歌したいという状況もある。

今、本校の給食時間は30分だが、そんなに足りない時間ではないと思っている。しかし選

択制(ランチボックス形式)なので、これが配膳を含めて30分となると、足りないかもしれないと思う。配膳がある場合は、給食当番の役割などによって、差異が生まれると思う。

どちらが良いかと言われると、決定打がない。

【会長】

給食時間の設定は各中学校で決めているのか。

【柳田委員】

教育課程の届出が必要。教育課程の中で、学校で運用できる部分とできない部分がある。

【会長】

小学校は、低学年は準備に20分かかると話があったが、配膳から片付けまでの時間はどのぐらいか。

【中谷委員】

現在、40分ぐらいである。

1、2年生は、今はコロナの影響があるので、専科職員が配膳を手伝っている。

現在40分で配膳から片付けまで終わっている。配膳は時間がかかるが、食べるのは早い。

【会長】

中学生なら、40分あれば余裕だろうか。その時間が取れるかどうかということになる。

給食の時間について、子供は何か言っているか。

【大野委員】

小学校4年、1年の子供がいる。上の子が1年生の時に、4時間目が長引いてしまい、準備が進まず、食べる時間が10分くらいしかなくてかきこむようになってしまったことはあった。お腹が空いたと言って帰ってきたことがある。

今は、ゆっくり食べられているかなと思う。

【会長】

慣れるまでは、短くて大変だったとお子さん達は思っていたということか。

高橋委員はどうか。

【高橋委員】

小学校3年、1年の子供がいる。3年生の子供が2年生の時に、日によって給食時間が短

くなってしまう、おかわりのじゃんけんができなかったとよくきいていた。

中学校で配膳を行った場合時間が変わってしまうことについては、八王子市、立川市が全員給食・給食センター方式に移行しやり切ることができると想定できるのであれば、町田市もできると思う。保護者に何か意見をということではなく、「できるのであればやる」という考え方もあると思う。

【上野委員】

小学校の子も中学校の子も、時間が短いなりに食べてきてはいる。親が思っている以上に子供たちは対応できていると思っている。

【会長】

時間がなく、お弁当が残るようなことはないか。

【上野委員】

好みでないものを残していることはあるが、時間がなくて残している様子はない。

【山下委員】

給食時間が延びることによって、始業、終業が変わることは自分としては問題ない。弁当を作る負担がなくなれば、登校が早くなっても保護者としては問題ない。終業は部活をしている生徒がほとんどなので、部活の時間が短くなるということだけで、保護者としては問題ないと思う。

娘の学校では、12:35から13:10までが給食と昼休み時間になっている。合わせて35分間。この時間が、配膳式になったときに、まるまる給食にあてられるのであれば、大丈夫かなとも思う。

【会長】

給食の時間については、提供方式が変わることによって、給食時間を調整する必要ができてくるかもしれない。中学生については、スムーズにいくかもしれない。

【事務局】

給食のことについては、様々な意見がある。

町田市の今までの形のままではいけないと認識して諮問させていただいている。今までと違うやり方でどんな給食を中学校の生徒に提供していくのがいいかということをもとめていただく協議会になろうかと思う。次回以降も引き続き協議していただきたい。

次回第10回は、2020年12月18日(金)14時30分から、10階会議室で行う。改めて案内する。

今後の予定だが、どのような形が中学生にとって望ましいか、どのような方向性が良いか、

2021年1月に答申をいただきたいと思っている。本日を合わせて5回程度の協議で終わりたいと考えている。次回は、いただいたご意見を整理できるように、方式による違いを示せるような資料を提示し、協議が進みやすいようにする。

【会長】

新たな給食の提供方式においても、各方式に様々なメリットやデメリットがあるかと思う。次回以降、新たな中学校の給食について、どのような形が望ましく、また、条件や制約がある中で、実現可能な案であるか、改めて協議を深めていきたいと思う。

短い時間の中で、どんな方式がいいのか、資料をもとに、新しい提供方式について答申できるようにしたいと考えている。

本日の協議会はこれで閉会する。

以上